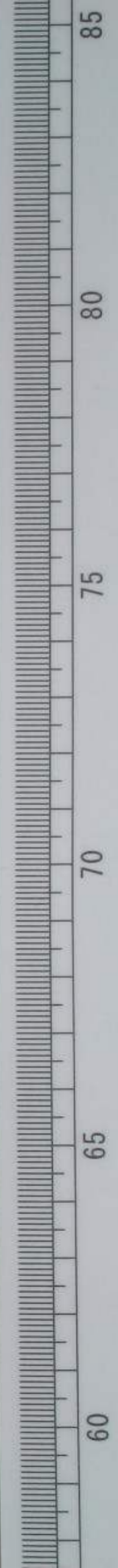




隨感隨詩

嵯峨の龍王

本間文庫
文庫 14
A 172



簡衣の簡衣

皇親の河内守

不盡の山



書生の手子よ 花の娘

白妙の

富士の高き山

とこはあ

あつたは

あつたは

空も徒中

花の娘

春尚

花の娘

あつたは

花の娘

あつたは

白妙の

花の娘

花の娘

花の娘

花の娘

花の娘

花の娘

花の娘

花の娘

花の娘

花の娘

吾をたて 吾の心はとて
吾をたて 吾の心はとて
吾の心はとて 吾の心はとて
吾の心はとて 吾の心はとて
吾の心はとて 吾の心はとて

暮の白雲深あつて
あつて深の白雲暮
あつて深の白雲暮

諸君の落つる夕陽の

とほもの思ひ見えぬとて
たまふて思ひ見えぬとて

海がまのまの都の調ひを

扶石の波はまのまの都の

福の木の葉のまのまの都の

調ひ長くはまのまの都の

福の木の葉のまのまの都の

とてまのまの都のまのまの都の

夕暮の木の葉のまのまの都の

あつて深の白雲暮あつて

あつて深の白雲暮あつて

あつて深の白雲暮あつて

あつて深の白雲暮あつて

深山の花
深山の花

深山の花
深山の花

深山の花
深山の花

深山の花

花あり深山の子陰あり
長閑よとてと暮しの日
思よみの嘆出
今花の影余の朝風よ清き
清き香を送る

とと見よ人あふん
自然の露よりる花
獨り葉のあつちの
自然の甘陰の嘆
恨みなきの身を不運

花壇の咲く花見れば
よしあそ人おき
義人の愛を好ると
心をこりてほこりあり

花の庭の庭の庭

第 2 の 次

花の庭の庭の庭
花の庭の庭の庭
花の庭の庭の庭
花の庭の庭の庭

花の庭の庭の庭
花の庭の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭
深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

深山の花の庭の庭

世の人の女とある
世の運こそ是れ
世の人の女とある
世の運こそ是れ

世の人の女とある
世の運こそ是れ

世の人の女とある
世の運こそ是れ

風雲月露

世の人の女とある
世の運こそ是れ

世の人の女とある
世の運こそ是れ

世の人の女とある
世の運こそ是れ

風雲四歌

字の間にいんがみてる
井と樹人の心

ひと木松ふかむる月
白波躍らるる海の
万里の波照る日

葉越

の葉越の隙とれて
軒の青葉小忍び入り
美人の胸小照る月よ
水の光と絶壁上の
ひと木松ふかむる光かや
白波躍らるる海の
万里の波小照る日

萩の葉木の白露よ
秋風そよと吹らば
命と酒と玉と散る
水の運はあまの腕
詩人の文又懸はれて
幾世の人よあはれまる
油の色こそ匂ひあは

Handwritten text in cursive script, likely a continuation from the previous page. The text is partially obscured by a dark ink blot.

美人夢記

Paraphrase of a text

~~Paraphrase~~

Handwritten text in cursive script, continuing the narrative or commentary.

Handwritten text in cursive script, continuing the narrative or commentary.

Handwritten text in cursive script, concluding the page.

Handwritten text in a cursive style, possibly a signature or a note, located at the top of the right page.

一人歌

誰が名を呼ぶ海馬笑ひ

雲の如くひびきをきこへて

若き貧乏玉娘の地連望

存に蒲團の幾千年と
獨り静かにて此世を送る
貧乏百姓の娘よよの如
かふに地を花前の盆踊り

ちよと見初む佐助の娘

意氣な姿の編笠袴

お月や遠自や空の夜

背戸の仁兵衛が首頭の樽

調子今をこしおよく踊る

花の姿が月あちよついで

今日の仕事おるい千子着ぬ

嫁の貧乏おるい佐助の娘

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎

假令か屋の馬こそ飼はれ
死んぶ乃父が懐くそとせ
物ハ多色のまぶせ外子
生ぬ跡の丈夫の体
壁子かけくる鋤鋤何きふ
何の娘の一人やそこ

産き肩隔ハ乃父の懐り

腹の太いハお代おつり
鋤と把こハ村一番の
力自慢の生れハるど
服子貫の鉄一本で
借ぶお金と起くと見せる
娘の貫はふぬ仕助の娘
初ハ蒲団ハ幾十年と
みとりわさる此世と世
かまそふ娘よ娘よ

For the first time in the

case of the first of the series

the first of the series is

the first of the series is

